On-site Education of Practical Languages for Area Studies Report in 2010

—Tibetan, Center for the Study of Developing Societies, India, 23 Aug. 2010 - 11Jan. 2011—

Year of Enrollment: 2010 Graduate School of Asian and Africa Areas Studies Kei Nagaoka

On My Language Training

 $= \frac{1}{2} \cdot \frac$

日本語要旨

私はダラムサラで3ヶ月半、図書館や家庭教師のもとチベット語を学習した。図書館では週5日、会話と文法の授業をそれぞれ午前中1時間ずつ受講した。受講生は15人ほどで、すべて外国人であった。私は図書館でチベット語をたくさん話した。なぜなら、図書館の職員はチベット人であり、外国人はみなチベット語を勉強しに来ているのでチベット語で会話をするからである。月曜から土曜まで、午後4時から家庭教師のペマ先生の家に通った。私は、前日に先生と話した内容や自分がしたことなどについて作文を書き、添削してもらった。時々、先生はダラムサラやチベットの文化について話をしてくれ、少しチベットの文化について知ることができた。授業がない時は、ルンタレストランでボランティアとして働き、尼僧や知り合いと話をした。

ダラムサラの後はタワンへ移動し、診療所や僧院、尼僧院、村などでチベット語を用いて調査をした。

現在は、辞書を見ればチベット文字で文章を書くことができる。また、チベット語が理解できるようになったが、完全に理解できるわけではない。チベット人と話す時など、相手がゆっくり話してくれると聞きとることができるが、早く話されると聞きとることができない。今後、一層、チベット語学習に努めたい。ダラムサラやタワンでの滞在はとても充実したものであった。